

調査報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作 見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日 調査実施の時間	平成 20 年 9 月 22 日 開始 10 時 30 分 ~ 終了 16 時 30 分
訪問先事業所名 (都道府県)	多機能地域ケアホームありがとう _____ (広島県)
評価調査員の氏名	氏 名 岡田 清子 _____
	氏 名 石田 秀子 _____
事業所側対応者	職 名 管 理 者 _____
	氏 名 木之下 美恵 _____
	ヒアリングを行った職員数 (2) 人

項目番号について
外部評価は30項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法
[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。
[取り組みを期待したい項目]
確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。
[取り組みを期待したい内容]
「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家 族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3471503221
法人名	(株) QOL サービス
事業所名	多機能地域ケアホーム ありがとう
所在地	広島県福山市春日町浦上1205 (電話) 084-948-6638
評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	福山市三吉町南一丁目11-31-201
訪問調査日	平成 20 年 9 月 22 日

【情報提供票より】20年 9月 3日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 <u>平成</u> 16 年 1 月 11 日
ユニット数	21 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	20 人 常勤 16 人 非常勤 4 人 常勤換算 19.4 人

(2) 建物概要

建物構造	木造一部鉄骨 造り 2 階建ての ・ 階 ~ 1 階部分
------	---------------------------------

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	35,000 円	その他の経費 (月額)	30,000 円	
敷金	有 (円)		<u>無</u>	
保証金の有無 (八百円以上は有)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	600 円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500 円	

4) 利用者の概要 8月 31日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	1 名	要介護2	6 名		
要介護3	4 名	要介護4	5 名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 83, 8 歳	最低	72 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	石原内科医院 ・ ふじもり医院 ・ 青葉台病院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特作成日 平成20年10月10日

東部に位置する閑静な住宅地よりに関連施設が並ぶ2ユニットのグループホームである。玄関横には昇降機の設備が備えてある。階段の踊り場には理念が明示してあり、階下にはリビングや居室があり共用空間より見える広い庭の果樹は素晴らしい眺めで、自由に散策することができる。利用者は自宅に居るように穏やかに過ごし、職員との信頼関係や利用者同士の馴染みの関係ができています。職員の研修が行き届き、利用者一人ひとりの状態を把握されているので、自然な見守りで対応している。又戸外にも頻繁に出かけるなど、その人らしさを大切にしたい取り組みが行われている。

【重点項目への取り組み状況

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回の改善課題である「同業者との交流」については既に取り組みが行われている。又、「地域密着型としての理念」について、職員間で話し合い、検討する予定である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	自己評価の意義は十分に理解している。評価結果は職員・家族・運営推進会議でも報告しミーティングの中で話し合い、改善に向け取り組まれている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5)
	運営推進会議で状況をスライド報告で行い意見やアドバイスを受けた内容を詳細に記録しミーティングで周知を図り改善に向けた取り組みがなされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	毎月「ありがとう通信」を送付し、近況の写真などを添えて報告し、信頼関係を築き、意見や要望が出やすい関係作りに努めている。面会時や各行事、家族会等に気軽に参加できるように取り組み、要望があればその都度運営に反映させている
重点項目	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	町内会や近隣の施設の行事に参加し、ボランティアや民生委員との関係を築き、日頃から地域の人々との交流を深めている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で利用者が目標を持って和みある生活が送れるように、という理念を掲げている。「地域密着型サービスとしての理念」について、再度職員間で話し合いを行う予定となっている。		
		理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念を共有し実践されている。その人らしさを大切に日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会や近隣の障害者施設の夏祭り等の行事に参加したり、ボランティアや民生委員との関わり、月1回の生き生きサロンにも参加して地元の人々との交流に務めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価実施の意義は十分に理解している。評価結果は職員・家族・運営推進会議でも報告されミーティングでケアの質の向上に取り組んでいる。		
		運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーが決まっており、状況をスライド報告し、外部や家族より意見を受け、それに対して協力体制ができています。記録も整理され改善に向けてのサービスに活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センターや市町村担当者を通して地域の情報を得る機会を作り連携を密にし、サービスの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「ありがとう通信」と共に近況の写真を送付したり、面会時にも報告し、突発的な状況の変化の時にはその都度伝えている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各種行事や家族会等に気軽に参加できる機会を設けている。不満や苦情等についても運営推進会議で話し合い、意見や要望をまとめ、運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の交流により、スタッフの連携がとれ、利用者へのダメージを最小限に抑えている。また、関連施設全体の協力体制も整っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年ありがとう学会での発表や全国レベル研修等への参加及び海外研修、グループホーム学会発表、認知症ケア発表等、働きながら職員の育成の充実、確保が出来ている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種研修での交流や包括支援センター主催による近隣のグループホームや小規模施設との交流を通じ、サービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>デイサービス利用からの入所者が多い。また、本人や家族に見学してもらってから利用を開始したり、やむ得ず、すぐにサービスを開始する場合には家族と連携を特に深め、配慮しながら馴染んでもらうように工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>役割作りを考え、利用者から学んだりお互いに協働しあいながら支援を行っている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人や家族と話し合い、一人ひとりの意向を十分に聴いている。困難な場合は表情を読み取り、本人本位に検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日常生活を通して本人の希望や意向を家族と相談し、意見や要望を反映させた介護計画を作成し、実施している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月ごとに見直しを行うと共に状態の変化では随時本人や家族、スタッフと協議し検討した上で新たな介護計画を作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同グループ施設の利用や認知症デイサービスの夏祭りに参加。地域の文化祭・コンサート・催し物に参加し、柔軟な対応で多機能性を活かし、本人家族の要望に応じている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望を優先し1,5km範囲のかかりつけ医への代行も行い、協力医療機関との連携を蜜に、適切な医療が受けられるように支援をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に伴う方針の確認書を作成し、家族の希望を聴取し、医療機関・家族・職員も同席、納得のいく対応で方針を決定し、全員で共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライバシーに配慮した支援で守秘義務が守られている。又、当該家族の個人情報仕様について、利用者の家族から予め文書で同意を得ている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムや体調に配慮し、精神的に負担をかけないよう、希望にそって支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の体調に応じて職員と共に食事の準備や、食事作り・盛り付け・配膳・職員と共にテーブルを囲んで楽しく食事をし、後片付けなどもしている。週1回、調理のボランティアの協力を得ている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望にあわせた入浴を実施している。気持ちよく入浴してもらうため、タイミングに配慮した支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を活かし、特技に合わせて自主的に楽しんで日々過ごせるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	庭のテラスの外気浴、近隣の公園への散歩、スーパーへの買い物、ドライブ、季節毎の行楽等戸外に頻繁に出かける支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯と安全を守るために施錠しているが、日中は解放して鍵をかけない取り組みを実施している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災、消防訓練を年1回実施。消火器の使用方法や避難訓練でシュミレーションを行っている。利用者が避難を終えた際、表札を裏返すと「非難済み」が明示され、分かりやすい仕組みがある。近隣の家族・職員及び地域の協力体制も得られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事は記録されており、補助食品の利用や水分量は把握できている。状態によってはとろみをつけて補給している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間より眺める庭は四季を通じて素晴らしい景色である。ウッドデッキがあり、リビングにはソファも置かれ、明るく、不快な音や臭気もなく居心地良く過ごせる空間である。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口には飾り窓があり、ディスプレイでその人らしさを表現している。出入り口には暖簾がかけられ、写真入の表札がある。馴染みの調度品に家族の写真・日用品などを持ち込み、整理され、居心地良く過ごせる工夫をしている。		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護


事業所名 多機能地域ケアホーム ありがとう グループホーム (ユニット1)

評価年月日 2008年 9月 22日

記入年月日 2008年 9月 3日

記入者 管理者 氏名 木之下 美恵

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		開設以来の理念であり、見直しも必要かと感じている。職員間で理念の見直しについて検討していきたい。今後も職員間での理念の共有、家族・地域への浸透に取り組みたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		今後、近隣の方にも当施設夏祭りに参加していただく予定。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	事業所見学会を地域の要望により実施。		突然の介護相談にも介護アドバイザーがいるため(今年度中にプラス2名、計4名)、助言・対応が可能である。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	評価結果は、職員を含めご家族にも送付、運営推進会議でも報告している。		自己評価することで、自分たちの日々の対応を振り返る事が出来るの良い機会を捉えてゆきたい。
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	外部の方、ご家族から、活発な意見を頂き、改善を行いながらサービスの向上を心かけている。		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	包括支援センターを通して、市の援助内容を開いたり、出来るだけ直接市役所に出向いていきたいと考えている。		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	経営者とその他に2名のケアマネおり、研修に参加している。		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	職員間で問題を共有、ストレスの軽減を図り、虐待防止に努めている。		虐待の勉強会を定期的を開く。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 . 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	全文を口頭により説明し、納得される対応を心がけている。		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	苦情箱を設置している。面会時の聞き取りもしている。		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	毎月、生活状況・ありがとう通信をご家族に送付している。突発的な健康状態の変化については、その都度報告している。		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	運営推進会議、各種行事、家族会等、ご家族参加の機会を作り、気軽に訪問していただける環境を心がけている。		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	毎月のリーダーミーティング・ユニットミーティングを設け、職員の意見の抽出を図っている。		リーダーミーティングのほか、月一回各施設の代表者が集まって施設内ミーティングをし、意見交換の機会を増やしている。
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	利用者の行動に合わせて、勤務時間帯を配慮している。利用者の状況変化、職員の急病に備え、職員を多く配置している。		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	ユニット間は常に交流し、関連施設全体も協力体制が整っている。		職員異動により、他部署でのGH利用者への理解を増やし、システム連携を図る。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 . 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年度末、ありがとう学会にて発表。全国レベルの研修参加、海外研修（毎年1～2名）、GH学会発表（3～4名）、認知症ケア学会2名。		OJTによるスタッフ育成の充実。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種研修により、交流を図り互いに相談対応できる関係維持に努めている。		2008年8月、近隣グループホーム・小規模多機能地域施設との交流会を実施（包括支援センター主催）。今後も続けていきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	体調により年休利用、夏・冬休暇、個人の状況に応じて他ユニット間・施設内移動も考慮している。		スタッフ休憩室改築予定。当施設内移動。個別面接を随時。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格習得を推奨している。個人の状況により、個々に合った勤務場所をスタッフ本人と共に考え、安心して働き続ける事の出来る配慮をしている。		今年度、奨学金援助による看護師資格取得中。来年度も実施予定。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 . 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	担当ケアマネ、ご家族に直接面談、見学に来ていただき、本人との面接には2名スタッフでご訪問し、ご本人の様子を十分聴く努力をしている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の協力なくして本人を支援していくことは難しいという事を共有して、十分な話し合いを度々設けて、対応を検討。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を聞いた上で費用等も説明。場合によっては特養老建へ再検討をお話しすることもある。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	デイサービス GHへのサービス利用変更された利用者については、入所当初から時々デイサービスで過ごされなじみのスタッフにも声をかけていただいている。		やむを得ずサービスをいきなり開始する場合は、ご家族と細かく連携をとりながら、無理のない声かけと細かい配慮を工夫中。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者さんの役割づくりを考えながら、その作業の中で共に泣き笑いできる関係作りに努めている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の立場を考え、共に本人を支える一員として相談できる関係に努めている。		当施設内外の夏祭りへの参加をご家族に呼びかけて、一緒に楽しんでいる。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	一泊旅行、バーベキュー、外出等、全員で出来る事、または個別でなど、希望以外にも協力により実施。		旅行については、ご家族も含め希望を聴取し、個別に対応している。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族の方々がゆっくり本人と過ごせるように別室もある。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	声掛け合って共に生活共同作業したりすることで、仲間意識が根付いている。		利用者同士の関係が適合しない方については、スタッフとの個別対応等、配慮している。利用者同士の相性等も配慮。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	年賀のはがき送付、病院入院または施設入所で退所となった利用者様へのお見舞い・訪問を定期的に行っている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1．一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、ご家族と個別に話をしている中で、何気ない一言、表情に気をとめながら、本人の思いを把握するよう努めている。		
34	専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、本人・ご家族・担当ケアマネ・主治医から情報をお聞きし、生活歴・アセスメントの作成（センター方式）。随時情報を頂き加えている。親族・友人からの情報も貴重である。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人の体調・心情の変化をスタッフが十分に観察し、一人一人その都度寄り添う対応を心がけている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	平素より本人の希望聴取に務め、家族と共に相談し、介護計画を作成・実施。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の状態変化に伴い、本人・家族・スタッフと協議し介護計画を随時変更。定期的に3ヶ月ごとに見直しをしている。		状況に応じて、柔軟にプラン項目を変化させてゆく。ご家族からの要望を聞き、出来る方には協力をお願いをして、家族と共に目標を達成する事もある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は本人の生の声を記入するようにしている。いつもと違う状態の変化(良い事・あまり良くなかった事)に注意する事等は送りに記入して、職員に伝えている。		記録用紙の改善を検討中。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自社、各種施設の利用。認知症デイサービスへの訪問(夏祭り)。		認知症デイサービス・小規模多機能居宅介護との人的・物理的・システムの連携。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防職員による救急救命講習、地域の園芸、ボランティア、図書館等公共施設の利用等支援している。		中学生の職場体験の受け入れ。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	インフォーマルなサービスについて、関係者からの情報・助言を受けている。福祉用具(車椅子レンタル)(自費レンタル中)。訪問マッサージ、訪問歯科。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議のメンバーになってもらい、ホームの取り組み状況を報告するとともに、アドバイスを受けている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関のみならず、本人・家族の納得した医師を選択できるよう配慮。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	日ごろの暮らしぶりから、専門的な受診が必要であればご家族に相談して、専門医受診を同伴にて行っている。		専門医と主治医との連携をとりながら、総合的に支援している。認知症について相談できる関係を築く。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	介護職のほか、両ユニットに看護職が定期的に入り、日常の健康管理を行っている。		「グループホームでの医療について」という基盤を作成し、緊急時の対応についてもご家族に個別に相談し、理解・協力をいただいている。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	一ヶ月内の退所に向けて、入院時より医師との連携を相互間で図っている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	全員書面にて、御家族より希望を聴取。医師・家族・スタッフ同席のもと、納得の行く対応を考え、方針を決定している。		ターミナルケア研修への参加。ターミナルケアの振り返りを十分に行い、今後のよりよいお見送りに生かす。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	看護師のパート雇用により、常勤看護師の応援を図っている。医師とも協議。ホーム内看護師不在時の点滴対応も、協議後マニュアルを作成した。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人・ご家族に別の転居可能な施設を紹介し、希望する複数の施設見学を行い、本人・ご家族中心となって決定していただいた。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1．その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない</p>	<p>入浴・排泄等のプライバシーの確保等、十分な配慮をしている。職務上の守秘義務については、書面に誓約書をとっている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>本人の気持ちに寄り添う時間を大切にしている。自分で選択できる場面作りに気をつけている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>本人に精神負担とならない配慮の中で、各々の生活リズムを作っておられるので、それを支援している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>特に体調に問題がない限り、各々理美容院へ外出支援している。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>一人一人の能力に合わせて、食事作りの準備。片付け等を依頼している。</p>	<p>嚥下機能が低下しても、食事の形態を工夫し、見た目にもおいしいソフト食作りを考慮していく(業者によるソフト食試食会実施)。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>本人の病状に合わせて、本人好みのものを共に飲み食べ、共に作ったりして楽しむ機会を作っている。本人と共に買い物に出かけたりしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	出来るだけ様々な食品を考えながら、マッサージまた、各々の排泄記録・管理により、日中出来るだけ布パンツ+パットの利用をしながら、トイレ誘導を行う。		体に負担をかけない排便薬の使用も併用している(随時、内服量は調節)。
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	本人の希望により、午前・午後いつでも入浴可能としている。本人のタイミングに合わせている。入浴前後の水分補給。		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	本人の状況により、午前中・午後からも各居室で、またはくつろげるスペースで、休息できる支援もしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	本人の特技の料理・裁縫等を依頼。畑の収穫、保存食・梅ジュース・らっきょ等手作り、また抹茶の日、お手前おやつの買い物等、自主的活動を依頼。		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	可能な方には自由に買い物してもらい、一定範囲での自己管理を支援。また買い物に行き支払いを依頼している。		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	庭(テラス)での外気浴、外出等、頻繁に出来る限りの対応を心がけている。		今後も、名所への季節を感じる外出・ドライブ・公園散歩・買い物等、続けていきたい。
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かける機会をつくり、支援している</p>	家族との旅行を毎年実施。本人の行きたいところへの外出支援。本人・ご家族の希望を最優先して対応。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人宛の年賀状の配布、年賀はがき作成の支援、コードレスホンの使用により自室での電話対応も可能。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	時間規制はなく、コタツ部屋、回想ルーム等、必要に応じて居室以外の部屋の利用も可能である。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はない。		勉強会の実施(D V D)。言葉による拘束についても留意している。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外、施錠はしていない。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に本人の居場所に留意し、スタッフ間で声を掛け合っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	物品管理について、手の届かない場所におく等、十分な注意をしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	危険度を把握し、色別のヒアリハットによる事故報告の記入によりスタッフ全員で問題を共有。必要に応じて、対策ミーティングを開催。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	毎年、消防署の職員により救急救命講習を実施している。AEDを各棟に設置。		定期的な救急講習会の実施。緊急時マニュアルを作成している。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣の家族。スタッフ等の協力を依頼。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	全ての危険因子を排除するのではなく、本人らしい生活を最優先しながらリスク管理のもと支援している。常に説明をし、必要なものを購入している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェック・排泄・食事等日々の利用者の状態に気を配っている。異変に気づいたら速やかに情報を共有し、主治医に相談している(体調変化を密に、正確に連絡をしたい場合は、長期にわたりFAX・写真にて状態報告)。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の体調、受診状態を十分に把握するように配慮。病院からのお薬情報を把握する。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	オリゴ糖・寒天・ゼリー等、繊維食品、水分摂取を根気よくとっていただくように援助している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	特に本人の拒否がない限り、口腔ケアを実施している。必要な時は、訪問歯科医のアドバイスを受けている。排泄介助後、洗面台を通った時にしている。		毎食後の口腔ケア

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を見ながら補助食品を利用したり、食べれるもの、好きなもので補給。水分もゼリー状にして随時補給。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルがある。感染症に関する資料を配備している。衣類の別洗浄や、除菌処理している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夜間時、台所の用品の熱湯毒と除菌。残食は持ち越さない。食器乾燥機の使用。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工 土 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	駐車場近くの出入り口に、案内板を提示している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁のディスプレイ。ウッドデッキの草花。庭の果樹。ポランティアさんによる花生け。浴室の暖簾。ソファなどによるくつろぎのスペース。		各ユニット、リビング続きで、和室・浴室増築予定。9月末に福祉機器展見学予定。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づ くり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	回想ルーム、廊下のソファ、和室等の利用。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ今までの使用して来たものを持参。本人のA/DLを考慮しながらつろげるよう、環境作りをしている。畳部屋等。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	高性能空気清浄機を2台設置。換気の随時実施。壁は吸臭作用・湿度調整できる珪藻土使用。		エアコンのクリーニングを実施中。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下のみならず、必要な居室も動線を考慮したり、手すりを配備している。必要な方には電動ベッドを配置している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人の居率入り口の工夫、目印のショーウィンドウや、暖簾により、自室を確認。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ウッドデッキ・庭・また近隣の公園等を活用。お茶を飲んだり、散歩を楽しんでおられる。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

個人・家族が満足のいく究極は、本来本人の家庭そのものと考えます。ホームでの生活がいかに本人にとって安心して暮らせる場所と新しい仲間になる事が出来るのが、目標と考えています。開所して5年を迎えようとしており、利用者の方々のADLの低下も目立つようになりましたが、日々の生活の中で時にぶつかり合い、時に泣いて、そして笑顔がふとこぼれる。その瞬間を共に喜びと感しながら、プロとして共存の中で、本人の日々の変化に気づくことのできる仲間となり、寄り添っていけることを目標としています。

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護


事業所名 多機能地域ケアホーム ありがとう グループホーム (ユニット2)

評価年月日 2008年 9月 22日

記入年月日 2008年 9月 3日

記入者 管理者 氏名 木之下 美恵

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
	恵まれた環境を生かして、全体理念である感動を生むケアの提供を目指している。		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
	パーソンセンタードケアの考え方を基盤に、リーダー・サブリーダーを中心に自覚してミーティングカンファレンスが行われている。		
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
	理念は各ユニット内で目に届きやすい位置に設置しており、また、ありがとう通信を家族・各公共施設・役所・民生委員へ配布している。		
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
	近隣の方から農作物をいただいたり、開所依頼の庭の草花の手入れのボランティアのほか、調理ボランティア、傾聴ボランティア等も来て下さっている。		
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		
	町内会夏祭り、近隣障害者施設夏祭り、月一回の公民館いきいきサロンへ2、3名ずつ参加している。当施設夏祭りにも、近隣障害者施設の方を招く予定。		今後、近隣の方にも当施設夏祭りに参加していただく予定。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	事業所見学会を地域の要望により実施。		突然の介護相談にも介護アドバイザーがいるため(今年度中にプラス2名、計4名)、助言・対応が可能である。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	評価結果は、職員を含めご家族にも送付、運営推進会議でも報告している。		自己評価することで、自分たちの日々の対応を振り返る事が出来る良い機会と捉えてゆきたい。
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	外部の方、ご家族から、活発な意見を頂き、改善を行いながらサービスの向上を心がけている。		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	包括支援センターを通して、市の援助内容を開いたり、出来るだけ直接市役所に出向いていきたいと考えている。		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	経営者とその他に1名のケアマネおり、研修に参加している。		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	職員間で問題を共有、ストレスの軽減を図り、虐待防止に努めている。		虐待の勉強会を定期的を開く。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 . 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	全文を口頭により説明し、納得される対応を心がけている。		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	苦情箱を設置している。面会時の聞き取りもしている。		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	毎月、生活状況・ありがとう通信をご家族に送付している。突発的な健康状態の変化については、その都度報告している。		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	運営推進会議、各種行事、家族会等、ご家族参加の機会を作り、気軽に訪問していただける環境を心がけている。		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	毎月のリーダーミーティング・ユニットミーティングを設け、職員の意見の抽出を図っている。		リーダーミーティングのほか、月一回各施設の代表者が集まって施設内ミーティングをし、意見交換の機会を増やしている。
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	利用者の行動に合わせて、勤務時間帯を配慮している。利用者の状況変化、職員の急病に備え、職員を多く配置している。		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	ユニット間は常に交流し、関連施設相互の協力体制を整えている。		職員異動により、他部署でのGH利用者への理解を増やし、システム連携を図る。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 . 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年度末、ありがとう学会にて発表。全国レベルの研修参加、海外研修（毎年1～2名）、GH学会発表（3～4名）、認知症ケア学会2名。		OJTによるスタッフ育成の充実。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種研修により、交流を図り互いに相談対応できる関係維持に努めている。		2008年8月、近隣グループホーム・小規模多機能地域施設との交流会を実施（包括支援センター主催）。今後も続けていきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	体調により年休利用、夏・冬休暇、個人の状況に応じて他ユニット間・施設内移動も考慮している。		スタッフ休憩室改築予定。当施設内移動。個別面接を随時。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格習得を推奨している。個人の状況により、個々に合った勤務場所をスタッフ本人と共に考え、安心して働き続ける事の出来る配慮をしている。		今年度、奨学金援助による看護師資格取得中。来年度も実施予定。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 . 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	担当ケアマネ、ご家族に直接面談、見学に来ていただき、本人との面接には2名スタッフでご訪問し、ご本人の様子を十分聴く努力をしている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の協力なくして本人を支援していくことは難しいという事を共有して、十分な話し合いを度々設けて、対応を検討。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を聞いた上で費用等も説明。場合によっては特養老建へ再検討をお話しすることもある。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	デイサービス GHへのサービス利用変更された利用者については、入所当初から時々デイサービスで過ごされなじみのスタッフにも声をかけていただいている。		やむを得ずサービスをいきなり開始する場合は、ご家族と細かく連携をとりながら、無理のない声かけと細かい配慮を工夫中。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者さんの役割づくりを考えながら、その作業の中で共に泣き笑いできる関係作りに努めている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の立場を考え、共に本人を支える一員として相談できる関係に努めている。		当施設内外の夏祭りへの参加をご家族に呼びかけて、一緒に楽しんでいる。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	一泊旅行、バーベキュー、外出等、全員で出来る事、または個別などで、希望以外にも協力により実施。		旅行については、ご家族も含め希望を聴取し、個別に対応している。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族の方々がゆっくり本人と過ごせるように別室もある。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	声掛け合って共に生活共同作業したりすることで、仲間意識が根付いている。		利用者同士の関係が適合しない方については、スタッフとの個別対応等、配慮している。利用者同士の相性等も配慮。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	年賀のはがき送付、病院入院または施設入所で退所となった利用者様へのお見舞い・訪問を定期的に行っている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1．一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、ご家族と個別に話をしている中で、何気ない一言、表情に気をとめながら、本人の思いを把握するよう努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、本人・ご家族・担当ケアマネ・主治医から情報をお聞きし、生活歴・アセスメントの作成（センター方式）。随時情報を頂き加えている。親族・友人からの情報も貴重である。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人の体調・心情の変化をスタッフが十分に観察し、一人一人その都度寄り添う対応を心がけている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	平素より本人の希望聴取に務め、家族と共に相談し、介護計画を作成・実施。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の状態変化に伴い、本人・家族・スタッフと協議し介護計画を随時変更。定期的に3ヶ月ごとに見直しをしている。		状況に応じて、柔軟にプラン項目を変化させてゆく。ご家族からの要望を聞き、出来る方には協力をお願いをして、家族と共に目標を達成する事もある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は本人の生の声を記入するようにしている。いつもと違う状態の変化(良い事・あまり良くなかった事)に注意する事等は送りに記入して、職員に伝えている。		記録用紙の改善を検討中。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自社、各種施設の利用。認知症デイサービスへの訪問(夏祭り)。		認知症デイサービス・小規模多機能居宅介護との人的・物理的・システムの連携。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防職員による救急救命講習、地域の園芸、ボランティア、図書館等公共施設の利用等支援している。		中学生の職場体験の受け入れ。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	インフォーマルなサービスについて、関係者からの情報・助言を受けている。福祉用具(車椅子レンタル)(自費レンタル中)。訪問マッサージ、訪問歯科。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議のメンバーになってもらい、ホームの取り組み状況を報告するとともに、アドバイスを受けている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関のみならず、本人・家族の納得した医師を選択できるよう配慮。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	日ごろの暮らしぶりから、専門的な受診が必要であればご家族に相談して、専門医受診を同伴にて行っている。		専門医と主治医との連携をとりながら、総合的に支援している。認知症について相談できる関係を築く。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	介護職のほか、両ユニットに看護職が定期的に入り、日常の健康管理を行っている。		「グループホームでの医療について」という基盤を作成し、緊急時の対応についてもご家族に個別に相談し、理解・協力をいただいている。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	一ヶ月内の退所に向けて、入院時より医師との連携を相互間で図っている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	全員書面にて、御家族より希望を聴取。医師・家族・スタッフ同席のもと、納得の行く対応を考え、方針を決定している。		ターミナルケア研修への参加。ターミナルケアの振り返りを十分に行い、今後のよりよいお見送りに生かす。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	看護師のパート雇用により、常勤看護師の応援を図っている。医師とも協議。ホーム内看護師不在時の点滴対応も協議し、マニュアルを作成した。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人・ご家族に別の転居可能な施設を紹介し、希望する複数の施設見学を行い、本人・ご家族中心となって決定していただいた。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1．その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	入浴・排泄等のプライバシーの確保等、十分な配慮をしている。職務上の守秘義務については、書面に誓約書をとっている。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の気持ちに寄り添う時間を大切にしている。自分で選択できる場面作りに気をつけている。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人に精神負担とならない配慮の中で、各々の生活リズムを作っておられるので、それを支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	特に体調に問題がない限り、各々理美容院へ外出支援している。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の能力に合わせて、食事作りの準備。片付け等を依頼している。	嚥下機能が低下しても、食事の形態を工夫し、見た目にもおいしいソフト食作りを考慮していく(業者によるソフト食試食会実施)。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の病状に合わせて、本人好みのものを共に飲み食べ、共に作ったりして楽しむ機会を作っている。本人と共に買い物に出かけたりしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	出来るだけ様々な食品を考えながら、マッサージまた、各々の排泄記録・管理により、日中出来るだけ布パンツ+パットの利用をしながら、トイレ誘導を行う。		体に負担をかけない排便薬の使用も併用している(随時、内服量は調節)。
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	本人の希望により、午前・午後いつでも入浴可能としている。本人のタイミングに合わせている。入浴前後の水分補給。		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	本人の状況により、午前中・午後からも各居室で、またはくつろげるスペースで、休息できる支援もしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	本人の特技の料理・裁縫等を依頼。畑の収穫、保存食・梅ジュース・らっきょ等手作り、また抹茶の日、お手前おやつの買い物等、自主的活動を依頼。		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	可能な方には自由に買い物してもらい、一定範囲での自己管理を支援。また買い物に行き支払いを依頼している。		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	庭(テラス)での外気浴、外出等、頻繁に出来る限りの対応を心がけている。		今後も、名所への季節を感じる外出・ドライブ・公園散歩・買い物等、続けていきたい。
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かける機会をつくり、支援している</p>	家族との旅行を毎年実施。本人の行きたいところへの外出支援。本人・ご家族の希望を最優先して対応。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人宛の年賀状の配布、年賀はがき作成の支援、コードレスホンの使用により自室での電話対応も可能。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	時間規制はなく、コタツ部屋、回想ルーム等、必要に応じて居室以外の部屋の利用も可能である。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はない。		勉強会の実施(D V D)。言葉による拘束についても留意している。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外、施錠はしていない。S O S ネットワークに登録。ご家族了解の上、交番・近隣スーパー等に写真入りの連絡先を配布している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に本人の居場所に留意し、スタッフ間で声を掛け合っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	物品管理について、手の届かない場所におく等、十分な注意をしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	危険度を把握し、色別のヒアリハットによる事故報告の記入によりスタッフ全員で問題を共有。必要に応じて、対策ミーティングを開催。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	毎年、消防署の職員により救急救命講習を実施している。AEDを各棟に設置。		定期的な救急講習会の実施。緊急時マニュアルを作成している。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣の家族。スタッフ等の協力を依頼。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	全ての危険因子を排除するのではなく、本人らしい生活を最優先しながらリスク管理のもと支援している。常に説明をし、必要なものを購入している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェック・排泄・食事等日々の利用者の状態に気を配っている。異変に気づいたら速やかに情報を共有し、主治医に相談している(体調変化を密に、正確に連絡をしたい場合は、長期にわたりFAX・写真にて状態報告)。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の体調、受診状態を十分に把握するように配慮。病院からのお薬情報を把握する。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	オリゴ糖・寒天・ゼリー等、繊維食品、水分摂取を根気よくとっていただくように援助している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	特に本人の拒否がない限り、口腔ケアを実施している。必要な時は、訪問歯科医のアドバイスを受けている。排泄介助後、洗面台を通った時にしている。		毎食後の口腔ケア

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を見ながら補助食品を利用したり、食べれるもの、好きなもので補給。水分もゼリー状にして随時補給。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルがある。感染症に関する資料を配備している。衣類の別洗浄や、除菌処理している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夜間時、台所の用品の熱湯毒と除菌。残食は持ち越さない。食器乾燥機の使用。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工 土 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	駐車場近くの出入り口に、案内板を提示している。		今後ユニットの玄関周りのより広いスペース確保のため、改装検討中。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁のディスプレイ。ウッドデッキの草花。庭の果樹。ボランティアさんによる花生け。浴室の暖簾。ソファなどによるくつろぎのスペース。		各ユニット、リビング続きで、和室・浴室増築予定。9月末に福祉機器展見学予定。
82	共用空間における一人ひとりの居場所 づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	回想ルーム、廊下のソファ、和室等の利用。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ今までの使用して来たものを持参。本人のA/D/Lを考慮しながらつろげるよう、環境作りをしている。畳部屋等。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	高性能空気清浄機を2台設置。換気の随時実施。壁は吸臭作用・湿度調整できる珪藻土使用。		エアコンのクリーニングを実施中。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下のみならず、必要な居室も動線を考慮したり、手すりを配備している。必要な方には電動ベッドを配置している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人の居率入り口の工夫、目印のショーウィンドウや、暖簾により、自室を確認。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ウッドデッキ・庭・また近隣の公園等を活用。お茶を飲んだり、散歩を楽しんでおられる。		

・サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

個人・家族が満足のいく究極は、本来本人の家庭そのものと考えます。ホームでの生活がいかに本人にとって安心して暮らせる場所と新しい仲間になる事が出来るのが、目標と考えています。開所して5年を迎えようとしており、利用者の方々のADLの低下も目立つようになりましたが、日々の生活の中で時にぶつかり合い、時に涙して、そして笑顔がふとこぼれる。その瞬間を共に喜びと感しながら、プロとして共存の中で、本人の日々の変化に気づくことのできる仲間となり、寄り添っていけることを目標としています。